✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧

## ✧　津波警報の改善についての提言が発表されました

気象庁は東北地方太平洋沖地震における甚大な津波被害を受けて、津波警報のあり方について勉強会や検討会を設けて検討してきました。中央防災会議でも専門調査会を設けて地震津波対策の総合的な検討を進めています。気象庁では、このような勉強会や専門調査会における指摘や提言、関係機関による被災地等における聞き取り調査結果等を踏まえ、平成 23 年 9 月 12 日に津波警報の改善の方向性についてとりまとめました。さらに詳細について検討を重ね、津波警報の発表基準等と津波警報の内容や発表のタイミングについて、提言を取りまとめ、平成 24 年 2 月 7 日に公表しました。

東北地方太平洋沖地震における津波警報の課題を要約すると、①地震発生 3 分後に発表した津波警報第 1 報で地震規模の推定が過小評価、②津波警報第 1 報で発表した「予想される津波の高さ 3m」が避難の遅れに繋がったと考えられる、③国内の広帯域地震計が振り切れ、地震の規模(マグニチュード)を精査できなかった。また、沖合のケーブル式水圧計のデータを利用した津波警報更新の手段が不十分、④津波の観測結果「津波の第 1 波 0.2m」などの情報が避難の遅れや中段に繋がったと考えられます。

これらの課題のうち、技術的課題は施設整備等により着実な改善が期待できることから、津波警報や津波観測情報の伝え方についての提言をとりまとめたものです。

例えば、津波の高さ予想の表現については、以下の表のとおりの表現を使うこととしています。

| 警報・注意報の分類 | 津波の高さ予想の区分 | 数値による表現 | 定性的表現 |
|---|---|---|---|
| 津波警報（大津波） | 10m～<br>5m～10m<br>3m～5m | 10m超<br>10m<br>5m | 巨大 |
| 津波警報（津波） | 1m～3m | 3m | 高い |
| 津波注意報 | 20cm～1m | 1m | なし※） |

※）情報文中では表記しない。

その他、津波避難における津波警報と避難指示等の防災対応、避難行動との関係を整理するとともに、情報伝達手段、ハザードマップや防災教育等の津波防災対策との連携が極めて重要です。津波防災対策については中央防災会議のワーキンググループで検討が進められる予定であり、気象庁は一層の津波警報の改善に取り組む必要があると指摘されています。(気象庁ホームページから)

なお、本検討会には気象振興協議会からの推薦として、気象振興協議会第一部会長でもある日本気象協会から近野第一部会長代理が出席しています。